
OpenChain Japan WG
第6回「組織間のライセンス情報授受」SWGミーティング

日時: 2019年1月29日(火) 16:00-18:00

場所: 日立製作所 品川オフィス

参加者:

ソニー: 福地さん、山岡さん、小保田さん
トヨタ自動車: 遠藤さん
富士通: 大内さん
富士通コンピュータテクノロジーズ: 浅羽さん、安倍さん
パイオニア: 富麻さん
パナソニック: 加藤さん
オリンパス: 小泉さん
デンソーテン: 日下部さん
ルネサス: 伊藤さん
東芝: 野末さん
Linux Foundation: Shaneさん
日立ソリューションズ: 渡邊さん
日立: 野村、今田

議事:(主なもの)

(1)最低限必要な項目の議論, 運用ドキュメントの目次レビュー

- Package File Nameや、Package Download Location等は、入手元の情報化、提供時の情報か整理が必要。
 - Package File Nameは提供時のファイル名で、別ファイルに取り込まれた場合は存在しないこともあり得るのか？
 - Package Download Locationは入手元の情報なのか？
- ソフトウェアが階層構造(別なOSSを取り込んでいる場合)になっている場合のライセンス情報の構成のイメージ合わせが必要。
 - ライセンス情報を集約するのか？ 個々のライセンス情報を独立して扱うのか？
- Package Home Pageが存在しない場合、存在しないことの証明は困難であるため、SPDX仕様のNOASSERTION を用いる。
- Copyright Textは、ソースコードの提供がある場合と、無い場合で扱いを分けた方が良さそう。ソースコードの提供が無い場合は全てのCopyrightを提示してもらわなければ調査が出来ないため。
- 運用ドキュメントにも記載する「構成例」のサンプルを作成して実例を使って意識合わせを行う必要がある。

(2)SPDX Lightのテレコンに関して

- 2/12 AMIに変更を依頼する。
- 議論は ソニー: 福地さんに一任する。

(3)SPDX, FOSSologyの紹介

- FOSSologyが検出した結果の精査(誤検知)はどのように行うのか？
 - ←FOSSologyの結果を「承認」することで行う。
 - 検出されたライセンス情報の妥当性を人手で確認して「承認」する運用が想定される使い方になる。
- FOSSologyで解析すると、rpmファイルで宣言されたライセンス以外のライセンスも検出される場合がある。
 - ←rpmで宣言されたライセンスと実体に差分があると厳しい。
 - ←Yoctoではレシピにライセンス情報を記載するので不整合が生じた場合は、レシピを修正する。修正の要求も受け付けている。

(4)次回に向けて

- 具体的な「構成例(※)」を元にサンプルを作成し、各項目の意識合わせと、再低減必要な項目の内容を再レビューする。
 - (※)構成例:「OSS単独」「OSS内に、別なOSSを取り込み」
 - 「請負開発品でOSS利用、ソースコード提供無し」
- ★サンプルの提示をお願いします。 > デンソーテン: 日下部さん
サンプルとして作成したい「構成例」がありましたら発言をお願いします。
次回参加者は、その「構成例」でサンプルの作成をお願いします。

※サンプルは出来るだけGithubに載せやすいように作成する。

(5)次回

2019年2月13日(水) 15:45～ 日立製作所 品川オフィス。

- ・サンプルを用いた再低減必要な項目のレビュー
- ・運用ドキュメントの目次レビュー、執筆分担の議論

----- 「組織間のライセンス情報授受」SWG後の議論も記録しておきます。

(6)ツールSWGの議論

- ・ACTプロジェクトで扱われているツール以外にもコンプライアンスの有益なツールはある。
- ・ACTの紹介資料のP11にある開発ライフサイクルに対応したツールマップを整備出来る
と有益だと思われる。

<https://github.com/OpenChain-Project/Japan-WG-General/blob/master/Compliance-Tooling/ACT/ACT%20Overview%20-%202020190115-DRAFT.pdf>

- ・ツールのインストール方法やノウハウなどが共有できると、OSSの扱いに慣れていない企業にも有益で、コンプライアンスが保てるようになる。
- ・ツールのSWGに関しては、次回のJapanWG(2/28 三菱電機)で提案、参加者を募る。
★東芝:野末さん よろしくお願ひします。

(7)JapanWGの今後の進め方 ... 時間切れで打ち切り

- ・参加企業、人を増やすプロモーションの強化が必要。
 - MLに参加を促す -> アウトプットを出す -> 裾野を広げる(★今ここ) -> 自社の業務に取り込む。
- ・簡単なタスクを作ることで、参加の機会を作ってはどうか？
- ・ツールのSWGを切り口に出来ないか？
 - ツールの勉強会で参加者を募り触ってもらう。
 - ツールの使い方を知っている人、知らなかった人の交流を図る。
 - 勉強会、セミナーを繰り返し開催する。
- ・なぜ、この滑動を行っているのか？を、各人が語ってメリット訴えてみてはどうか？
 - 外部リソースと連携した成果を社内に取り込める等。

以上

株式会社 日立製作所
システム&サービスビジネス統括本部
OSSソリューションセンタ
野村祐治 yuji.nomura.bk@hitachi.com